

平成21年度本物の舞台芸術体験事業 劇団道化座「スーホの白い馬」 九州・沖縄地区公演

2009年10月9日から11月10日まで<文化庁本物の舞台芸術体験事業>として「スーホの白い馬」公演を行いました。宮崎から始まって大分、鹿児島、沖縄、そして宮崎へ戻る…合計14校、総勢6000人もの子どもたちと一緒に芝居をしてきたことを、後から計算してびっくりしました。夏休み中のワークショップも含めると、約2ヶ月くらい、九州中をあっちへ行ったり、こっちへ行ったりしていたことになります。

ワークショップの寸前まで、力一杯体育館の中を走り回っていたのに、始まった途端に静かになってしまった子、準備をしている間、ずっとゲームの話題で盛り上がっていた子、僕にあだ名を付けてくれた子もいました。もちろん、休憩時間に台本を広げ「ここはどういう風にするんですか？」と質問してきた子もいました。思いもよらない質問に「一緒に考えよう!!」となってしまうこともあります。子供たちの九州弁に囲まれていると、なんとなくこちらも訛ってきてしまうのが不思議でした。

いつも思うのは、「子供たちのパワーはすごいなあ」ということです。最初は声も小さく、僕が声を張り上げてみんなを引っ張っていくのですが、いつの間にか子どもたちの声も大きくなり、圧倒されることもあります。



小学校の高学年になると照れが出てきて、怒ったようなふて腐れたような顔で練習した子供たちも、本番になって衣裳を着てライトの前に立つと、思いもよらない大きな声で歌って、喋って、笑って……。すごいなあ。それに負けじとこちら声を出し、身体を動かし…。体調の悪さも吹き飛ばすほどの元気をもらいましたよ。

僕はあまり真面目な小学生ではなかったのですが、小学生の頃に戻ってもあんなことはきっと出来なかっただろうなあ。僕が小学生のときに「スーホの白い馬」を観て、いまその作品に出演しているように、もし、今回の小さな観客の中に「お芝居って面白いな」と思って、この先、少しだけでも覚えていてもらえたら、嬉しいなあ。

浅川恭徳

【子どもたちの感想】

- 体育館やステージが暗くなってビックリしました。一人でいくつもの役をしていたのにも驚きました。なりたいたいのをよくばりな大王の娘です。キレイなドレスを着てみたいです。扇子を持ってみたいです。
- 一番印象的だったのは、みなさんの「笑顔」です。みなさんの笑顔を見ていると、私達まで笑顔になってとても楽しかったです。
- 劇を見る前はどんな劇なのかドキドキワクワクしました。スーホとスピカの友情はとても固く結ばれているなと思いました。
- わくわくしながら聞きました。スーホとスピカはとても、仲の良いと伝わりました。まるで心の糸が繋がっているみたいに思いました。
- 「春夏秋冬の歌」を友だちと毎日毎日練習をしていました。チーヤーサイサイの歌、大好きです。
- 「スーホの白い馬」が大好きです。私はこのことを忘れたくないと思います。
- 劇に参加して、少し緊張したけど良い体験になりました。また、劇を見て、感動しました。これからも人々が感動するお芝居を頑張ってください。
- あの日は、もう一度することのできない貴重な時間だったので、とても大切にしたい思い出になりました。
- 初めて劇と一緒にしたのでやってみていろいろなことを知ることができました。声は大きな声でハキハキということです。劇団の方々と一緒にできて嬉しかったです。この思い出は私の宝物です。
- がんばってくれてありがとうございます。とてもきれいにできていました☆（1年生）
- 劇団では、大切な事は笑顔と大きな声です。気に入りました。麦の穂スピカとスーホの友情にも感動しました。また来てください。そしてスーホやスピカのように頑張ってください。
- すごいと思ったところは、表現の仕方です。「馬のかけっこ」の時スーホ役が白い馬のかっこうをしてでてくるところと、領主のお部屋や声、しぐさがとても迫力があってこわかったです。私は一回でいいからスーホ役をしてみたいなと思いました。すばらしい演技や歌声、とても感動しました!!!
- 今までいろいろな劇をみたけど、「スーホの白い馬」は子どもも参加できてすごいなあと思いました。これからもいろいろなおもしろい劇をして楽しい思い出をつくってください。
- 劇団の人たちはみんなよりも笑顔やハキハキした声がすごくよくて、感動しました。私もうっとりみとれていました。
- 自分たちで作るのは「いいなあ」と思いました。「工夫」というものを感じました。

文化庁「本物の舞台芸術体験事業」—子どもたちとの共演—

劇団道化座 代表 須永克彦

開演15分前。出番を待っている生徒たちの緊張感が伝わってくる。そこには、前回ワークショップで出会った時とは異なる彼らがいた。そしてベルが鳴り、場内は暗転となる。いよいよ開幕だ。衣装を付けて彼らがライトを浴びて登場する。音楽が流れ、彼らが唱う。

♪春の風がやってきた 花かご下げてやってきた
チーイヤサーイサイ ヤーホサーサイ
白いすももに赤い桃 黄色い菜の花 あおい豆
花を咲かせてあげましょう
歌を歌ってあげましょう
チーイヤサーイサイ ヤーホサーイサイ ♪

どの子どもみんな、もうすっかり劇中の人物になっている。これは凄いことだ。衣装を身につけた事での高揚感が彼らをそうさせるのか、精一杯挑戦し懸命に演じる彼らからは、私たちの指導以上の表現力が感じられた。これは本当に凄いことだ！ 演じること……これは人類が得た大切な自己表現なのだ。

また、舞台が終わってからの彼らの楽しさは、私たちの想像以上だった。劇中歌が身体に残っているのか、彼らは劇中に舞台上で撒いた春の花びら（紙吹雪）を手で拾い集めながら意気揚々と教室へ引き上げていった。これはもう大成功だ！

達成感に満ちあふれた彼らの姿に、私たちも心から嬉しいと感じる。「子どもたちがあんなに楽しそうに、生き活きと動き、唱っているのを見て、胸が熱くなりました。子どもたちをあれほど生き活きとさせるお仕事をされているみなさんを羨ましく思いましたよ。」と公演後、先生に言われた。

私たちは、「本物の舞台芸術体験事業」での子どもたちとの触れあいを通して、良い仕事をさせて戴いているという実感を、毎回肌身に感じております。「生の舞台」を体験することが子どもたちの心の成長にどんなに大切なことか、言うまでもありません。生きることの大切さを学び、希望や夢を与えることのできる「力」が「生の舞台」にはあるのです。その現場は便利な都会だけとは限らず、むしろ山をいくつもいくつも超えた学校であったり、岬の先の先の小さな学校であったり、何時間も船に揺られていく島であったりもします。また連日の移動、舞台設営、公演、撤去、そしてまた移動と、生身の身体で表現する者にとっては誠に過酷なものです。ですが、大きな「力」を持つ演劇に携わる者としての自負を支えに頑張っております。

私たちは、今後もこの子どもたちとの出会いを忘れずに、この仕事をぜひとも続けていきたいと心から願っております。